# 第１期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

## 山形大学

平成２３年５月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

## （Ⅰ）教育に関する目標

### １．評価結果及び判断理由

**【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由）　「教育に関する目標」に係る中期目標（５項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

（参考）

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由）　「教育に関する目標」に係る中期目標（５項目）のうち、４項目が「おおむね良好」、１項目が「不十分」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### ２．各中期目標の達成状況

#### ①　教育目標

**【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由）　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育目標：教養教育と専門教育のカリキュラムの一層の充実を図り、創造性豊かな人間性と優れた専門性を育み、実社会で活躍できる知的・人間的資質を備えた人材の育成を行う。また、多様な研究成果を活かした教育を通じて、持続可能な社会の実現に向けて、地域や国際社会で貢献できる人材を育成する」の下に定められている具体的な目標（１項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「おおむね良好」であることから判断した。

**＜特記すべき点＞**

**（特色ある点）**

○　中期計画「学生主体の問題解決型の授業を増やす」について、「エリアキャンパスもがみ」において学生主体の問題解決型授業である体験型授業「フィールドワーク共生の森もがみ」を開講したことは、学生の問題発見・解決能力の向上及びプレゼンテーション能力の涵養が図られている点で、特色ある取組であると判断される。

#### ②　教育の成果に関する目標

**【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由）　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（１項目）が「おおむね良好」であったこと

から、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。
　平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「おおむね良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

**＜特記すべき点＞**

**（改善を要する点）**

○　中期計画「人間教育重視の観点から、教養教育と専門教育を連携させた教育実施体制を充実させる」について、教養教育と専門教育を連携させた教育実施体制が充実されたとは認められず、知識･技能や課題探求能力を確実に習得するための新たな教養教育（基盤教育）も平成 21 年度までに実施されていないことから、中期計画は十分には実施されていないと判断される。

**（平成16～19年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況）**

○　平成 16 ～ 19 年度の評価において、

中期計画「人間教育重視の観点から、教養教育と専門教育を連携させた教育実施体制を充実させる」について、専門教育科目を他学部の学生が一般教育科目として受講することを可能にする取組だけでは、連携が機能しているとはいえないことから、改善することが望まれる

と指摘したところである。

　平成 20、21 年度においては、教養教育と専門教育を連携させた教育実施体制が充実されたとは認められず、知識･技能や課題探求能力を確実に習得するための新たな教養教育（基盤教育）も平成 21 年度までに実施されていないことから、当該中期計画に照らして、改善されていないと判断された。

### ③　教育内容等に関する目標

**【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由）　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（13 項目）のうち、２項目が「良好」、10 項目が「おおむね良好」、１項目が「不十分」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。
　平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、２項目が「良好」、11 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

**＜特記すべき点＞**

**（優れた点）**

○　中期計画「エネルギー・環境・食料・人口問題等、21 世紀の諸課題に対応できるよ

う学際領域の授業科目の充実を図る」について、一般教育科目のみならず各学部の専門教育科目においてもエネルギー・環境・食料・人口問題等に関する授業が開講されているほか、現代的教育ニーズ取組支援プログラムに４件採択されていることは、優れていると判断される。

○　中期計画「単位取得状況、GPA の分布、履修状況、学生に対するアンケート調査などを踏まえ、教育課程の改善・充実を図る」について、「グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度」、「アドバイザー制度」、「学習サポート教員制度」の三つの柱で構成された修学支援体制である「YU サポーティングシステム」を平成 16 年度から立ち上げ、修学支援を実施したこと、アンケート調査結果等を教育課程の改善・充実に反映させていること及び教養セミナーの科目数を増加させたことは、優れていると判断される。

○　中期計画「全学部で学生による授業評価を原則として毎学期行い、評価結果を教育方法の改善・充実に積極的に活用する」について、学生による授業評価を定期的に実施して、その成果を教育方法等の改善に反映させており、その結果、学生の授業に対する総合満足度が年々向上していることは、優れていると判断される。

**（改善を要する点）**

○　中期計画「一般教育科目として他学部学生に受講させることのできる専門科目を拡大することにより、教養教育と専門教育の有機的連携を強め、教養教育の充実を図る」について、平成 20、21 年度には他学部学生が一般教育科目として受講できる専門科目を 10 科目から 11 科目に拡大しているが、教養教育と専門教育との有機的連携が強化されたとは認められないことから、中期計画は十分には実施されていないと判断される。

**（特色ある点）**

○　中期計画「アドミッション・ポリシーを受験生や受験現場に周知徹底し、本学に相応しい受験生を掘り起こし、本学の求める学生の入学を促進する」について、学長直属のエンロールメント・マネジメント室による学生支援体制を構築し、「入試アドバイザー」による独自の高等学校訪問により志願者の増加につながっていることは、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「英語（C）〈コミュニケーション英語〉と英語（R）〈読解〉の趣旨を徹底し、英語（C）については少人数のクラスとし、ネイティブスピーカーの活用を図る」について、外国語教育センターを設置して、語学教育の充実を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「教育方法の改善のための専門組織を設け、教育活動の改善・充実に具体的かつ実践的に取り組む」について、高等教育研究企画センターを設置して、ファカ

ルティ・ディベロップメント（FD）活動を積極的に推進し、山形県内の３つの４年制大学と３つの短期大学が連携し地域教育力の向上を目指す「地域ネットワーク FD“樹氷”」（現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択）を立ち上げ、さらに、このネットワークを東日本の国公私立大学・短大に発展させた「FD ネットワーク“つばさ”」を展開していることは、特色ある取組であると判断される。

**（平成16～19年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況）**

○　平成 16 ～ 19 年度の評価において、

中期計画「個々の授業・演習ごとに到達度を明示し、成績評価の方法・基準を策定・実施する」について、到達度の明示や、成績評価方法・基準の策定が行われていない授業科目があることから、改善することが望まれる

と指摘したところである。

平成 20、21 年度においては、平成 21 年度に、到達度の明示や、成績評価方法・基準が策定されていない授業科目においても、授業の到達目標、授業概要・計画、成績評価の方法・基準等を策定しシラバスに明記するとともに、指導教員が個々の学生に対して説明し、成績評価を実施していることから、当該中期計画に照らして、改善されていると判断された。

**（顕著な変化が認められる点）**

○　中期計画「入学者選抜方法や入学試験問題の見直しと改善を図るため、外部委員も参加する評価組織を構築する」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、入学者選抜方法や入学試験問題の見直しと改善を図るため、外部委員も参加する評価組織が平成 20 年３月末時点で機能していない点で「不十分」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、入学者選抜に関する外部評価実施要項に基づき、試験問題の教科･科目に対応した高等学校教諭経験者等による評価組織を整備し、外部評価を実施していることから改善されており、「おおむね良好」となった。

○　中期計画「卒業研究等を通して、卒業年次学生の専門的思考や技術を高める」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、卒業研究等により、専門的思考や技術を高めるための取組があったとは判断できない点で「不十分」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、卒業論文発表会を公開で実施するなど、各学部において、卒業研究等を通じて専門的思考や技術を高めるための取組を実施していることから改善されており、「おおむね良好」となった。

○　中期計画「個々の授業・演習ごとに到達度を明示し、成績評価の方法・基準を策定・実施する」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、到達度の明示や、成績評価方法・基準が策定されていない授業科目がある点で「不十分」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては改善されており、「おおむね良好」となった。（「平成 16 ～ 19 年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況」参照）

### ④　教育の実施体制等に関する目標

| | |
|---|---|
| **【評価結果】** | **中期目標の達成状況がおおむね良好である** |
| （判断理由） | 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のうち、２項目が「おおむね良好」、１項目が「不十分」であったことから、「中期目標の達成状況が不十分である」であった。<br>平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。 |

**＜特記すべき点＞**

**（優れた点）**

○　中期計画「教育の質の改善について、実践や調査研究の成果を定期的に刊行する」について、平成 20 年度質の高い大学教育推進プログラムに採択された「学生主体型授業開発共有化 FD プロジェクト」における学生主体型授業等の教育の質の改善についての取組成果を「教養教育授業改善の研究と実践」及び「山形大学高等教育研究年報」に取りまとめ、刊行していることは、優れていると判断される。

**（平成16～19年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況）**

○　平成 16 ～ 19 年度の評価において、

中期計画「教員の教育活動に関する評価手法の検討を進め、教育業績の正当な評価を行うとともに、教育能力に優れた教員の採用を進める」について、達成状況報告書には、教育能力に優れた教員の採用を進める取組についての十分な自己分析がなされておらず、中期計画の進捗状況が認められないことから、改善することが望まれる

と指摘したところである。

平成 20、21 年度において、平成 18 年度から平成 20 年度までの業績を評価し、平成 21 年 12 月期の勤勉手当の査定や、改善に関する指導・助言の資料として活用している。また、教員の採用にあたっては、模擬授業やプレゼンテーションを取り入れるなど、教育業績や教授能力等を総合的に判断していることから、当該中期計画に照らして、改善されていると判断された。

**（顕著な変化が認められる点）**

○　中期計画「教員の教育活動に関する評価手法の検討を進め、教育業績の正当な評価を行うとともに、教育能力に優れた教員の採用を進める」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、達成状況報告書には、教育能力に優れた教員の採用を進める取

組についての十分な自己分析がなされておらず、中期計画の進捗状況が認められない点で「不十分」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては改善されており、「おおむね良好」となった。(「平成 16 ～ 19 年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況」参照)

○　中期計画「教育の質の改善について、実践や調査研究の成果を定期的に刊行する」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「良好」となった。(「優れた点」参照)

### ⑤　学生への支援に関する目標

| |
|---|
| **【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である**<br>(判断理由)　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（５項目）のうち、１項目が「良好」、４項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。<br>平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「良好」、４項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。 |

**＜特記すべき点＞**

**（優れた点）**

○　中期計画「就職セミナー、ガイダンス等の開催、個別の就職相談等の実施による学生の就職意識の啓発及び就職試験に対する実践的な指導を行い、就職支援の充実を図る」について、平成 19 年度に就職ガイダンスやセミナー個別相談等様々な取組を実施し、過去最高となる 99.5 %の就職率を達成したことは、優れていると判断される。

## （Ⅱ）研究に関する目標

### １．評価結果及び判断理由

| |
|---|
| **【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である**<br>(判断理由)　「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。<br>(参考)<br>平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。<br>**【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である**<br>(判断理由)　「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。 |

## ２．各中期目標の達成状況

### ①　研究水準及び研究の成果等に関する目標

| | |
|---|---|
| **【評価結果】** | **中期目標の達成状況がおおむね良好である** |
| （判断理由） | 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（６項目）のうち、２項目が「良好」、４項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。<br>平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、２項目が「良好」、４項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。 |

**＜特記すべき点＞**

**（優れた点）**

○　中期計画「独創的・萌芽的研究テーマを公募し、１学部（１部門）１件の採択・推進を図る」について、世界遺産「ナスカ地上絵」に関する学際的研究や山形県有機エレクトロニクスバレー構想プロジェクト等の国際的に質の高い先進的研究活動が推進されていることは、優れていると判断される。

**（特色ある点）**

○　中期計画「重点研究を推進するための研究スペースとして全建物面積の５％の共有化を目指す」について、当初の計画を上回る 8.6 ％の共有化を平成 19 年度に達成したことは、戦略的な利用を可能としている点で、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「研究水準を維持するため、研究成果を組織として把握し、全教員の著書、学術論文、学術賞、特許等の一覧を定期的に公表する」について、大学情報データベースを構築し、教員の研究活動状況、研究成果をウェブサイトで公開していることは、特色ある取組であると判断される。

### ②　研究実施体制等の整備に関する目標

| | |
|---|---|
| **【評価結果】** | **中期目標の達成状況がおおむね良好である** |
| （判断理由） | 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（４項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。<br>平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「良好」、３ |

項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

**＜特記すべき点＞**

**（優れた点）**

○　中期計画「プロジェクト研究体制を推進するため、専任教員を確保し、ポスドク等を積極的に配置する」について、平成21年度に科学技術振興調整費により、テニュア・トラック教員を５名採用したことをはじめ、YU-COEとグローバルCOEプログラムの研究プロジェクトを推進するために、平成20年度55名、平成21年度52名のポスドク等を研究員や職員として採用したことなど、積極的に若手リーダー・若手研究者を育成していることは、優れていると判断される。

**（顕著な変化が認められる点）**

○　中期計画「プロジェクト研究体制を推進するため、専任教員を確保し、ポスドク等を積極的に配置する」について、平成16～19年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成20、21年度の実施状況においては、「良好」となった。（「優れた点」参照）

○　中期計画「機器分析室を設置し、研究支援を行う」について、平成16～19年度の評価においては、機器分析室の設置が実施されていない点で「不十分」であったが、平成20、21年度の実施状況においては、平成20年10月に学内共有研究スペースである「山形大学総合研究所」を設置し、教育研究の共同利用、分析機器を用いた研究開発・委託分析等を行っていることから改善されており、「おおむね良好」となった。

## （Ⅲ）その他の目標

### （１）社会との連携、国際交流等に関する目標

#### １．評価結果及び判断理由

**【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由）　「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

（参考）

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由）　「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（２項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

## ２．各中期目標の達成状況

### ①　社会との連携

| | |
|---|---|
| **【評価結果】** | **中期目標の達成状況がおおむね良好である** |
| （判断理由） | 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携」の下に定められている具体的な目標（７項目）のうち、３項目が「良好」、４項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。<br>平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、４項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。 |

**＜特記すべき点＞**

**（優れた点）**

○　中期計画「県・市等との人事交流を推進するとともに、地域に密着した研究テーマの公募と推進を図る」について、地域に密着した研究を推進しており、また、山形県との連携強化に関連して科学技術振興調整費「食農の匠」育成プログラムに採択されたことは、優れていると判断される。

○　中期計画「地域分散型総合大学の特色を活かした学際的な教育・研究及び異分野との連携を促進し、産業・経済、行政を始めとする幅広い社会の要請に対応する」について、地域共同研究センターと６つのサテライトにより地域連携事業を意欲的に推進しており、また、「エリアキャンパスもがみ」の取組により、「日本計画行政学会計画賞」を受賞したことは、優れていると判断できる。

**（特色ある点）**

○　中期計画「附属図書館、附属博物館、重要文化財（旧米沢高等工業学校本館）等学内施設の公開を更に進め、地域サービスを充実させる」について、図書館の一般市民の利用が 20,000 名を超えていることは、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「高大連携の充実、出前講義等、本学の教育能力を最大限に発揮し、地域の初等中等教育の充実・発展に貢献する」について、平成 20 年度から「やまがた未来科学プロジェクト」、「やまがた“科学の花咲く”プロジェクト」を開始し、小中高等学校生を対象として天文台の一般公開や四次元宇宙シアターの上映等の企画を実施したこと、高等学校への出前講義が年々増加して高大連携を強く進めていること、学生を小中学校に教育ボランティアとして多数派遣していることなど地域貢献を進めていることは、特色ある取組であると判断される。

**（顕著な変化が認められる点）**

○　中期計画「高大連携の充実、出前講義等、本学の教育能力を最大限に発揮し、地域

の初等中等教育の充実・発展に貢献する」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「良好」となった。(「特色ある点」参照)

### ② 国際交流等

| | |
|---|---|
| **【評価結果】** | **中期目標の達成状況がおおむね良好である** |
| (判断理由) | 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「国際交流等」の下に定められている具体的な目標（６項目）のうち、２項目が「良好」、４項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。<br>平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、２項目が「良好」、４項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。 |

**＜特記すべき点＞**

**（優れた点）**

○ 中期計画「留学生課に国際交流部門を設置して専門スタッフを配置し、留学生センターと一体となって留学生及び研究者交流の支援を強化する」について、事務局の国際交流担当部門の専門スタッフを公募により採用したほか、国際交流ユニットの設置により、国際交流支援機能が強化されていることは、優れていると判断される。

○ 中期計画「学部、研究科の入学者募集要項の外国版を作成し、留学を希望する外国人学生等に広く入学試験情報を提供する。これにより留学生の受入れを増加させる」について、留学生用に英語版の入学者募集要項や英語版、韓国語版、中国語版の入学案内リーフレットを作成し、また、留学生の受入れ制度の整備等の取組を行うことにより、留学生数が増加していることは、優れていると判断できる。